

**第5問 (20点)**

製品Hを量産するT工場では、パーシャル・プランによる標準原価計算を採用している。下記の1～3の資料にもとづいて、(1)原価標準(単位あたり標準原価)、(2)直接材料費の消費量差異、(3)直接労務費の直接作業時間差異および(4)製造間接費の予算差異を計算しなさい。また、答案用紙の仕掛品勘定の( )内に適切な数字を記入しなさい(原価差異には、直接材料費、直接労務費および製造間接費の総差異の合計額を記入すること)。

1. 当月の生産に関する資料

当 月 製 品 完 成 量 : 500単位  
 月 末 仕 掛 品 量 : 100単位 (1/2)

(注1) 直接材料は工程の始点で投入される。  
 (注2) ( )内の数値は加工進捗度を示している。  
 (注3) 月初仕掛品はなかった。

2. 当月の実際発生額に関する資料

直 接 材 料 費 : 30,000,000円 (実際消費量 30,000 kg)  
 直 接 労 務 費 : 21,210,000円 (実際直接作業時間 42,500 時間)  
 製 造 間 接 費 : 10,525,000円

3. 当月の標準と予算に関する資料

直接材料費の標準消費価格 : 970円/kg  
 直接材料費の標準消費量 : 49kg/単位  
 直接労務費の標準消費賃率 : 510円/時間  
 直接労務費の標準直接作業時間 : 80時間/単位  
 製 造 間 接 費 月 次 予 算 : 10,578,000円

(注) 製造間接費は直接作業時間を基準として製品に標準配賦されている(月間基準操業度=43,000時間)。

- (1)  円/単位
- (2)  円 ( )
- (3)  円 ( )
- (4)  円 ( )

(注) (2)～(4)の( )内には、借方差異の場合は借方、貸方差異の場合は貸方と記入すること。

(単位:円)

仕 掛 品	
直接材料費 ( )	完 成 高 ( )
直接労務費 ( )	月 末 有 高 ( )
製造間接費 ( )	/
原 価 差 異 ( )	
( )	